

審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	乙 第 3035 号	氏名	石井 隆大
審 査 担 当 者	主 査	小曾根 甚裕	(印)
	副主査	西 昭徳	(印)
	副主査	石 竹 達 也	(印)
主論文題目： The Japanese version of the children's sleep habits questionnaire (CSHQ-J): A validation study and influencing factors. (日本語版子供の睡眠習慣(CSHQ-J)質問票標準化研究)			

審査結果の要旨 (意見)

本研究は、子供の成長・発達への関与が注目されている睡眠習慣について現在広く臨床に用いられている日本語版子供の睡眠習慣質問票 CSHQ-J につき、これまで長年未施行であった標準化研究を行ったものである。本研究により CSHQ-J の信頼性および妥当性が示され、臨床および研究において重要な研究となった。また本質問票のカットオフ値が 48 点であることが改めて示され、従来の数値より高いことも示された。これは本邦に特徴的な添い寝の習慣が影響しているものと考えられた。

本論文は 2022 年の Brain & Development (日本小児神経学会の英文雑誌; インパクトファクター 1.74) に掲載されており、学位論文として十分ふさわしい研究である。

論文要旨

本研究の目的は、子どもの睡眠習慣調査票日本語版 (CSHQ-J) の妥当性と CSHQ-J の総得点に影響を与える因子を検証することである。

参加者は 3158 人の 4~12 歳の子どもと保護者で、大・中・小都市のコミュニティサイズから対象として集めた。保護者は質問票セット (CSHQ-J, Pittsburgh Sleep Quality Index, フェイスシート) に記入し、カットオフスコアを算出するために著者施設から 51 名の疾患群を収集した。原著 CSHQ の年齢分布 (4~10 歳) に応じて、探索的・確認的因子分析および内的整合性 (Cronbach α の検証) により、統計的に妥当性を評価した。CSHQ-J の総得点に影響を与える因子を特定するため、多変量解析を行った。

2687 名から回答を得て (回収率: 85%)、原著 CSHQ の年齢分布である 1688 名を解析対象とした。CSHQ-J の各下位項目の α 係数は 0.43~0.68 であった。カットオフスコアは 48 点 (感度: 0.69, 特異度: 0.79) であった。確認的および探索的因子分析は収束しなかった。多変量解析の結果、CSHQ-J の総得点に有意に影響する因子は、添い寝、補助睡眠、子どもの年齢であった。CSHQ-J は十分な内的整合性を有し、小児睡眠障害のスクリーニングに有用である。CSHQ-J をスクリーニングに使用する際には、補助睡眠、添い寝の習慣、子どもの年齢を考慮する必要がある。